

平成29年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年3月14日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東  
 コード番号 2929 URL http://www.pharmafoods.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祐  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部部长 (氏名) 青笹 正義 TEL 075-394-8600  
 四半期報告書提出予定日 平成29年3月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年7月期第2四半期の連結業績（平成28年8月1日～平成29年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第2四半期	2,009	19.3	△497	—	△480	—	△484	—
28年7月期第2四半期	1,683	—	△441	—	△412	—	△409	—

(注) 包括利益 29年7月期第2四半期 △483百万円 (—%) 28年7月期第2四半期 △421百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第2四半期	△16.67	—
28年7月期第2四半期	△14.10	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年7月期第2四半期	5,706	3,011	52.5
28年7月期	4,472	3,496	77.9

(参考) 自己資本 29年7月期第2四半期 2,997百万円 28年7月期 3,482百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年7月期	—	—	—	—	—
29年7月期	—	—	—	—	—
29年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年7月期の連結業績予想（平成28年8月1日～平成29年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,500	30.0	50	—	90	268.7	80	208.9	2.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
 新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

（注）特定子会社の異動には該当いたしません。第2四半期連結会計期間より、株式会社フューチャーラボ及び同社100%子会社である株式会社メディアラボを連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年7月期2Q	29,034,200株	28年7月期	29,034,200株
② 期末自己株式数	29年7月期2Q	一株	28年7月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年7月期2Q	29,034,200株	28年7月期2Q	29,034,200株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融緩和政策の継続を背景に、輸出企業の業績や雇用情勢が改善したものの、中国経済の減退や米国、EUの政情懸念等により先行き不透明な中で推移いたしました。

このような環境下において、当社は「医薬」(Pharmaceuticals)と「食」(Foods)の融合「ファーマフーズ(Pharma Foods)」を目指し、積極的な事業展開を行ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間では、平成28年11月1日付で株式会社フューチャーラボの株式を取得し、子会社化いたしました。同社が持つ化粧品の開発力、販売チャネル、顧客と当社の有するリピート通販ノウハウ、独自素材の開発力等を融合することで、通信販売事業の一層の拡大を目指しております。なお、株式のみなし取得日を平成28年12月31日付で行っており、今期の業績には第3四半期連結会計期間より寄与する見込みです。

また、平成28年12月1日付で、東京証券取引所マザーズ上場後10年を経過した上場市場の選択に基づき、東京証券取引所第二部への市場変更を行っております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、通信販売事業の拡大等により2,009百万円(前年同期比19.3%増)となりました。利益面では、通信販売事業において将来を見据えた積極的な先行投資を行い、広告宣伝費1,255百万円を計上した結果、営業損失は497百万円(前年同期は441百万円の損失)となりました。営業外収益で補助金収入等を計上したことにより、経常損失は480百万円(前年同期は412百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は484百万円(前年同期は409百万円の損失)となりました。

通信販売事業において費用が先行発生しておりますが、将来の収益源となる顧客数は順調に増えており、下期以降で収益化を進めてまいります。

各セグメントの業績の概要は、次のとおりであります。

## &lt;機能性素材事業&gt;

機能性素材事業では、当社グループの根幹である機能性素材の開発、販売および機能性素材を配合したOEM(original equipment manufacturer)製品の企画、販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間では、当社の主力素材である「GABA(ギャバ)」の展開に注力してまいりました。国内市場では「機能性表示食品制度」への取り組みを積極的に進めており、多くの食品メーカー・飲料メーカーから問い合わせを頂いております。作秋から、江崎グリコ株式会社より「メンタルバランスチョコレートGABA」が機能性表示食品として発売開始されております。「GABA」の機能性では「ストレス」「疲労感」「血圧」に加えて、新たに「睡眠」に関する機能性表示の届出が受理されております。以上により、国内での売上は堅調に推移しました。

「GABA」の海外展開では、中国、北米等を中心に営業展開を行っております。中国では、前期より複数のグローバルメーカーに当社の「GABA」が採用されておりますが、第2四半期連結累計期間においては、売上が低調に推移しました。北米向けではサプリメント製品に当社の「GABA」が採用されており、堅調に推移しております。

卵黄由来ペプチド「ボーンペップ」は、同製品が配合された「セノビックヨーグルト」がオハヨー乳業株式会社より新たに発売開始されております。同製品はロート製薬の粉末飲料「セノビック」のヨーグルトタイプの新製品であり、これに伴い「ボーンペップ」の売上も伸長しました。

この他、当社の根幹技術である鶏卵抗体「オボプロン」、葉酸を高含有した「葉酸たまご」、卵白由来ペプチド「ランペップ」、卵黄由来ヒアルロン酸産生促進素材「iHA(アイハ)」等の素材を販売しております。

新製品としては、株式会社シャルレと共同開発をした卵黄由来の新規育毛活性成分「HGP(Hair Growth Peptide)」を配合した女性用のサプリメント「ビハツネス」が新たに発売されております。同製品は育毛用のサプリメントとして注目を集めており、今後も売上拡大に向けて開発、営業の両面から積極的な展開を進めてまいります。

この他、鶏軟骨由来ヒアルロン酸産生促進素材「HAS-II(ハス・ツー)」、卵白由来の筋力低下抑制素材「サルコペップ」、酵母由来の美白素材「セレプロン」等の開発を進めております。

OEM製品の販売では、サプリメントメーカー、製薬メーカー、および流通業者等に積極的な営業展開を行い、「GABA」を配合した機能性表示食品等を販売しております。

これらの結果、機能性素材事業の売上高は503百万円(前年同期比21.2%減)、セグメント利益89百万円(前年同期比29.2%減)となりました。

#### <通信販売事業>

「通信販売事業」では、当社の独自素材を用いたサプリメント及び化粧品の販売を行っております。当第2四半期連結累計期間では、引き続きラジオ、テレビ、WEBおよび紙媒体で、将来を見据えた積極的な広告展開を行ってまいりました。また、コールセンター業務を行う「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を通じて、新規顧客獲得の強化と既存顧客へのサービス向上を行っております。

上記の施策により、主力製品である膝関節用サプリメント「タマゴサミン」、および活性卵殻膜を配合した美肌クリーム「珠肌のうみつ」の売上が伸長しております。当第2四半期連結累計期間では、特に「珠肌のうみつ」等の化粧品の愛用者が増え、売上が大きく伸ばしております。広告展開では、上半期に重点的に広告投資を行う方針で進めてまいりました。

これらの結果、通信販売事業の売上高は1,479百万円（前年同期比42.8%増）、広告宣伝費1,255百万円を計上した等により、セグメント損失542百万円（前年同期は494百万円の損失）となりました。

#### <バイオメディカル事業>

バイオメディカル事業では、創薬事業、医薬品・診断薬開発目的のための抗体受託作製事業および素材・製品等に関して、分析・効能評価試験を行うLSI（Life Science Information）事業を行っております。

創薬事業では、当社独自のニワトリ抗体作製技術「ALAGENE（アラジン・Avian Lead Antibody GENE）」を用いて新規抗体医薬を創製する「悪性腫瘍プロジェクト」、「関節リウマチプロジェクト」、および新規ペプチド医薬を創製する「骨形成プロジェクト」に注力してまいりました。

特に「悪性腫瘍プロジェクト」に関しましては、国立がん研究センターと共同研究を推進しつつ、国内外の複数の製薬企業と提携交渉を継続しております。

当第2四半期連結累計期間では、抗体受託作製業務およびLSI事業の収入等により、売上高は26百万円（前年同期比175.5%増）、研究開発費の計上等により、セグメント損失44百万円（前年同期は74百万円の損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,233百万円増加し、5,706百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加720百万円及びのれんの増加259百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,719百万円増加し、2,695百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加1,128百万円、未払金の増加412百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ485百万円減少し、3,011百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少481百万円によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年7月期の連結業績予想につきましては、平成28年9月13日に発表しました業績予想値から変更はありません。下期以降の主な事項は以下のとおりです。

#### (機能性素材事業)

国内においては、機能性表示制度の広がりを受け主力素材であるGABAの売上が、下期以降も、堅調に推移する見込みです。引き続き積極的な営業展開を行うことでGABAの売上拡大を進めてまいります。国外では中国向けの売上が、上期は当初予想下回りましたが、下期以降で受注を確保できるよう、営業展開を推進してまいります。

#### (通信販売事業)

上期において広告宣伝投資を積極的に行っておりますが、通期では利益の確保を図れるよう進めてまいります。投資効率を重視しており、広告宣伝費を調整することで収支バランスをとってまいります。

#### (バイオメディカル事業)

創薬事業、医薬品・診断薬開発目的のための抗体受託作製事業および素材・製品等に関して、分析・効能評価試験を行うLSI事業の各事業を推進してまいります。

#### (株式フューチャーラボ)

平成28年12月31日をみなし取得日としており、連結業績への影響は、第3四半期会計期間より生じます。今期は1月から7月までの7ヶ月間が連結業績に寄与する見込みです。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社の異動には該当いたしません。当社が株式会社フューチャーラボの発行済株式の全部を取得したことに伴い、第2四半期連結会計期間より、株式会社フューチャーラボおよび同社の100%子会社である株式会社メディアラボを連結の範囲に含めております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は平成26年7月期より継続して、営業損失および営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。

この要因は平成24年8月より通信販売事業及び平成25年9月より創薬事業を本格的に開始し、先行投資を積極的に行って来たことによるものです。

先行投資により損失が継続していますが、各事業とも進展し、通信販売事業では収益基盤となる定期顧客数は順調に増加しております。

また、従来からの主力事業である機能性素材事業においても、国内及び海外での営業展開を積極的に行ってきた結果、売上、利益とも伸長しております。

これらの結果、前連結会計年度は経常利益24百万円と黒字を計上しております。

当社の財政状態は平成29年1月末時点で自己資本比率52.5%、手元資金2,821百万円を有しており、事業を継続するための十分な資金、安全性を維持しております。一昨年8月には、通信販売事業の拡大に向けた資金を金融機関から借入れており、中長期間にわたる資金を調達できております。今後も財務の安定性を維持しながら効率的な投資を行っていく方針であります。

以上により、当第2四半期連結会計期間末において、継続企業の前提に関する重要事象等は生じておりません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,101,254	2,821,477
受取手形及び売掛金	591,650	566,088
商品及び製品	211,695	492,193
仕掛品	3,544	5,589
原材料及び貯蔵品	72,178	40,259
その他	182,892	186,553
貸倒引当金	△3,484	△2,895
流動資産合計	3,159,730	4,109,266
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	277,949	275,068
機械装置及び運搬具(純額)	4,787	3,957
工具、器具及び備品(純額)	49,702	45,311
土地	387,863	387,863
リース資産(純額)	2,585	7,625
建設仮勘定	2,160	5,400
有形固定資産合計	725,048	725,226
無形固定資産		
のれん	1,341	260,969
その他	33,435	35,430
無形固定資産合計	34,776	296,400
投資その他の資産		
投資有価証券	101,673	94,353
関係会社長期貸付金	163,114	146,733
その他	289,970	336,209
貸倒引当金	△1,706	△1,594
投資その他の資産合計	553,052	575,702
固定資産合計	1,312,877	1,597,329
資産合計	4,472,607	5,706,596

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	89,480	144,390
短期借入金	50,000	50,000
未払金	74,547	487,081
1年内返済予定の長期借入金	199,464	446,688
賞与引当金	1,096	1,469
その他	100,148	163,336
流動負債合計	514,736	1,292,966
固定負債		
長期借入金	429,412	1,311,065
退職給付に係る負債	2,597	48,874
その他	29,082	42,309
固定負債合計	461,091	1,402,248
負債合計	975,828	2,695,215
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,031,278	2,031,278
資本剰余金	1,881,982	1,881,982
利益剰余金	△455,427	△939,556
株主資本合計	3,457,833	2,973,704
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,107	29,095
為替換算調整勘定	△9,082	△4,854
その他の包括利益累計額合計	25,024	24,241
新株予約権	11,022	8,712
非支配株主持分	2,899	4,722
純資産合計	3,496,779	3,011,380
負債純資産合計	4,472,607	5,706,596



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)
売上高	1,683,739	2,009,082
売上原価	517,518	429,738
売上総利益	1,166,221	1,579,343
販売費及び一般管理費		
研究開発費	153,164	123,320
広告宣伝費	938,376	1,255,335
支払手数料	237,181	261,320
のれん償却額	335	335
その他	278,880	436,599
販売費及び一般管理費合計	1,607,938	2,076,910
営業損失(△)	△441,717	△497,566
営業外収益		
受取利息	5,512	4,520
受取配当金	584	200
為替差益	-	4,654
補助金収入	32,234	12,147
その他	4,858	5,746
営業外収益合計	43,190	27,268
営業外費用		
支払利息	2,303	2,597
為替差損	8,632	-
持分法による投資損失	878	603
解約違約金	-	4,629
その他	2,150	2,423
営業外費用合計	13,965	10,253
経常損失(△)	△412,492	△480,552
特別利益		
新株予約権戻入益	2,135	2,310
特別利益合計	2,135	2,310
税金等調整前四半期純損失(△)	△410,357	△478,242
法人税等	1,137	4,063
四半期純損失(△)	△411,494	△482,305
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,044	1,823
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△409,450	△484,128

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年8月1日 至 平成28年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年8月1日 至 平成29年1月31日)
四半期純損失(△)	△411,494	△482,305
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,848	△5,012
為替換算調整勘定	△4,469	4,228
その他の包括利益合計	△10,317	△783
四半期包括利益	△421,812	△483,088
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△419,767	△484,912
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,044	1,823

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年8月1日 至 平成28年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計 (注)
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	637,983	1,036,030	9,725	1,683,739
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	637,983	1,036,030	9,725	1,683,739
セグメント利益又は損失(△)	126,912	△494,239	△74,390	△441,717

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年8月1日 至 平成29年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計 (注)
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	503,231	1,479,058	26,792	2,009,082
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	503,231	1,479,058	26,792	2,009,082
セグメント利益又は損失(△)	89,921	△542,567	△44,921	△497,566

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、株式会社フューチャーラボの株式を取得し、同社および同社の子会社を連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「通信販売事業」セグメントにおいて、1,448,506千円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「通信販売事業」セグメントにおいて、株式会社フューチャーラボの株式を取得したことにより、同社を連結子会社としております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において、259,964千円であります。